

令和6年度 学校評価 南小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と社会性の土台作り ・社会的な生活習慣の育成 ・規範意識の向上 ・地域学校協働活動による教育の質の向上と保護者の参画
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう姿勢の育成 ・規範意識の高揚 ・地域、家庭との連携の充実

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	地域・家庭との協働	ア) 基本的な生活習慣の確立 イ) 地域学校協働活動の推進 ウ) 組織ワークの充実 エ) 情報発信	B	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアとの関わり方で児童と保護者の認識にずれがある一方、早寝については児童・保護者共に肯定的な評価が高い。メディアとの関わり方は親子対話や指導が必要で、早寝は啓発活動を継続する。 ・95%の保護者が地域に関連した学習を進めていることを認めている。児童は84%が地域を取り上げた学習に楽しさを感じている。地域学校協働活動推進員とさらに連携を進め活動の充実を図る。 ・保護者と教職員の8割以上が学校からの情報発信を肯定的に評価している。今後も、日々の担任からの連絡や学校だより等の様々な媒体を通じて情報発信を継続し、情報共有を図るとともに、配付物の電子化やメール配信など、タイムリーな情報伝達手段の整備を進めていく。
教育課程	主体的・対話的な学びの充実	オ) 学びに向かう姿勢の育成 カ) 協働的な学びの実現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主学習意欲について、教員の肯定的な評価が増加したものの、児童・保護者の意識に変化は乏しく、教師の気づきを伝える機会の充実が課題である。授業理解度は保護者の肯定的な評価が増加した一方、児童に変化は見られず、ノートの書き方については教員間で評価が分かれている。宿題に関しては、保護者の肯定的な評価が増加したものの、教員は否定的な評価を強めており、量や質の調整、自己選択制など学習習慣化に向けた取組を具現化する。

課題教育	人権教育	キ) 自尊感情の育成 ク) 社会的生活習慣の育成	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の8割が自分に良いところがあると肯定的に評価している一方、2割は否定的な評価をしており、自己肯定感を高める働きかけの継続が必要である。また、4割以上の児童がイライラして人に嫌な言動をとっていると自覚しており、自分の言動を客観視できている。保護者は子どもの気持ちのコントロールについて肯定的な回答が若干増えており、学校の感情コントロール指導やスクールカウンセラーの活用、保護者との共通理解が要因と考えられる。 ・児童の「人の物やみんなの物を大切にしているか」という問いに対し、児童・保護者共に肯定的な評価が増加し、児童の成長がみられた。「ほんわか言葉を使っているか」という言葉遣いについては、児童・保護者共に否定的な評価が増加し、改善が見られなかった。「みんなのルールが守れているか」という問いに対しては、児童の否定的な評価が減少し、肯定的な評価もわずかに改善が見られた。これは、2学期を通して行われた生活目標の設定と評価の取り組みの成果と考えられるため、取組を継続する。
------	------	-----------------------------	---

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども園と小学校の円滑な接続が重要である。園では、小学校生活を見据えた取り組みとして、入学前に小学生の椅子に慣れ親しむ機会を設けるなど、具体的な対策を検討する。また、地域人材を活用した入学時のサポート体制を構築することにより、子どもたちがスムーズに学校生活をスタートできるよう支援していくことが大切である。 ・体験的な学習や異年齢集団での活動を重視する。豊かな人間関係を育むために、体育や総合的な学習の時間などを活用した活動を積極的に取り入れていく。また、月目標など、学校の教育活動について保護者との情報共有を密にし、相互理解を深めることで、より効果的な教育活動を展開していくことができる。 ・家庭との連携を密にし、子どもたちの生活習慣の確立を支援していくことが重要である。特に、コミュニケーション、早寝、オンラインゲームの扱いなど、家庭での過ごし方について、学校と家庭が共通理解を持ち、協力して指導していくことが大切である。
--

4 次年度の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・こども園と小学校の円滑な接続に向け、入学前の体験学習や地域人材を活用したサポート体制の構築を検討する。これにより、子どもたちが安心して学校生活をスタートできるよう支援する。 ・体験的な学習や異年齢集団での活動を積極的に取り入れ、豊かな人間関係を育む教育活動を推進する。また、月目標などの教育活動に関する情報を保護者と密に共有し、相互理解を深めることで、より効果的な教育活動を目指す。 ・家庭との連携を強化し、子どもたちの生活習慣の確立を支援する。特に、コミュニケーション、早寝、オンラインゲームの扱いなど、家庭での過ごし方について、学校と家庭が共通理解を持ち、協力して指導する。 <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">令和 7 年 3 月 20 日</p> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">学校名 丹波市立南小学校 校長名 足 立 圭 造</p>
--